

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	放課後等デイサービス ガンバ		公表日	令和7年 3月 14日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		地域のニーズが多くなっているため、二事業所目を開所している。	10名以上の受け入れの際は他の部屋も必要と思われる。受け入れの場所が限られているが、個別空間も限られているため、確保が必要。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用者の相性や環境を分けるなどの工夫はしているが、活動内容によっては他事業所のスタッフにサポートをいただきながら支援を行っている。	人員配置としては、国基準の範囲内だがより1人ひとりに合わせた支援を考えると支援が行き届かないケースがある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。 また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	他事業も兼ねてはいるが、利用者に対して活動内容の説明を言葉だけではなく、絵などを使用して明確化を行っている。	個別空間の数が限られているため、パーティションを使用して対応しているが、視覚的には整備されても聴覚の面で整備されない。障がい種別が様々なため、一概に配慮できているとは言い切れない。(整備に伴い費用面での課題が大きい。)
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。 また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日、玩具や棚、ロッカー等の消毒を行っている。	普段掃除機はかけているが、長期的な目で見たと業者に委託した定期的なクリーニングが必要。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		子どもたちの希望を汲み取りながら個別の空間を確保している。またパーティションを使用して個室化を図っている。	限られた空間の中で個別の部屋を作るには限界がある。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		正職員間で設定や振り返り、改善を話し合いより良い支援や業務ができるように共有し、参画している。	正職員間での話し合いのためパート、アルバイトへの周知として会議を通し確認できるようにしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		目標や課題などを検討し、職員間で情報を共有しながら共通認識のもとに実行出来るようにしており、会議等を通して職員全体で把握することができている。 また、保護者の意向を把握し環境整備の改善を行っている。	保護者の意向等を反映させ、事業改善を検討しているが、法人として金銭的に対応が難しいケースもある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		日々、職員同士、またパートやアルバイトの方々も分け隔てなく支援のことや利用者のことなどを話し合うことができている。	口頭での共有だけでなく議事録等を通し、会議に出席できなかった職員への情報共有の徹底をしていく必要がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	法人として第三者委員会は配置している。	法人として第三者委員は配置しているが、事業の評価については実施されていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		システムの研修や外部の研修を受けたりする機会を設けたり、法人で行っている研修には全職員を対象に参加している。また、資格取得の為に法人で一部補助を出して資格取得しやすくしている。	事業所内では研修の時間が決まっているため、録画したものをパート・アルバイトの職員も閲覧できるように工夫していく。
11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		職員間で話し合い、支援プログラムを作成し公表している。	定期的に更新していき支援の質を高められるよう行っていく。	
12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		面談等で本人や保護者からのニーズを吸い上げ自由時間、個別課題、集団活動等色々な活動に落とし込み、取り組めるような計画の作成を行っている。	ケース会議等の実施が少なく施設内での様子しかわからない為、関係機関との連携を増やせるようにしていく。	

13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		その方に必要な支援を職員間で話し合い共通認識を持って作成している。	パート・アルバイト職員からの情報を吸いあげられるようにしていく。
14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		会議の中で集中的に説明を行い、意見を求め共通理解に努めている。	パート・アルバイト職員に対し、その利用者に沿った支援の方向性をより具体的に説明していく。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		保護者から各機関の情報をもらい、それをもとに支援を行っている。	日々の行動観察において、利用者合ったツールを使用してアセスメントを取れるようにしていく。
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		現在どのように掲載していくか検討している。	現在作成中の支援プログラムが完成した後、個別支援計画に取り入れていく。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		各月に応じた活動をスタッフ全体で話し合い考えている。様々な視点から子どもたちが楽しめるようなプログラムを計画している。	みなさんからの意見や取り組んだことがある内容をスタッフ間で話し合い立案している。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		同じ活動でも内容を変化させて取り組んでいる。また子ども会議を通して子どもたちの意見を吸い上げたり、SNSを使用して情報を集めている。	決められた場所での活動のため、できることとできないことがある。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		利用者に対し、無理なく支援ができるよう限られたスペースの中でも個別対応をしたり、内容によって集団活動に参加できるよう取り組み計画を作成している。	利用者の個別支援計画書に基づき、静と動の活動を組み合わせた支援を行いつつ今後も継続していく。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		活動前に活動担当者が打ち合わせを行い役割分担や利用者について説明しチームで連携して支援をおこなっている。また、非常勤の方にも出勤時に情報共有を行っている。	活動内容も前回の活動を振り返り改善につなげたり、利用者が不安とならないような説明などができるよう、より一層力を入れていく。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		一日の振り返りを行い支援内容や課題内容を話し、情報共有や対応を検討している。	終礼で振り返りができない際は、活動担当の職員同士で振り返りを行うようにする。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用した際の情報はシステムを通して毎日記録し残している。スタッフ間でも行ったことを共有し、次の支援でどのようにすればよいのか話し合っている。	毎日記録をつけているがより支援を充実させるために、1人ひとりにどのような支援が必要か等、もう少し明確に共有し合えるようにしていく必要がある。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		基本は初期は3か月、その後は6か月ごとにモニタリングをする形となっている。また使用時間の変更がある際は別表を作り直している。	期日に間に合うよう、日程調整を行っている。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		様々な活動を行ったり、余暇の時間を設け自由時間を楽しめるようにしている。	「4つの基本活動」を取り入れ活動しているが、組み合わせ方に偏りがある。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		やってみたいことやどうしたいかなどの意見を出すことが出来るようにアンケートなどで自分の意見を言えたり、活動でも意見を言える機会を作ったりしている。	自己選択、自己決定が出来るように促すものの、自己中心的な発言を通すことにならなうよう、どこまでが良いのか職員間でラインを共有しながら支援していく。
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		支援担当者より情報を収集しながら児発管が参加している。	相談事業所や関係機関との連携を密にしていき、会議の参加を増やしていく。
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者を通して必要な情報を提供してもらっている。	関係機関と連携する環境が整っていないため、体制確保ができるよう検討していく。

関係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○	学校の時間に関することは保護者を通して伝えてもらっている。また、学校の本人の状況把握は必要に応じて連絡などで確認している。	急な予定変更時にすぐに対応することが難しく、学校の協力をいただくことがある。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○	就学前の状況については相談事業所、行政担当者、保健師を介して情報をいただいたり保護者からの聞き取りなどで確認していく。	就学前の利用者がいなかったため行っていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○	先方から問い合わせがあった際には保護者に確認後、情報共有をしている。	卒業後の移動先へ必要に応じて保護者の承諾を得てから情報提供を行っていく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○	直接児童発達支援センターとの連携は図っていないが、間接的に保健師や行政を通して連携を取っている。	間接的に保健師や行政との連携を取っているが、スーパーバイズを受ける機会を設けていないので今後活用していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○	計画的に交流は行えていないが、公園などで一緒になる際に関わることがある。	外部との関わりが少なく体制が整っていない為、今後検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○	体制が整っていないため、現在は参加できていない。	事業所として参加することを必要としているが体制が整っていない為、参加できるよう整えていく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○	送迎時や面談時などを通して保護者と話す機会を設け、積極的にコミュニケーションを取ったり状況が分かるように説明し、結果を職員間でも共有している。また、保護者へ状況の説明等が足りない際は電話などを使用して伝えている。	今後も同様に日頃のコミュニケーションやシステム等を通して共通理解に繋げていく。
保 護 者 へ の 説 明 等	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	ペアレント・トレーニング等は行っていないが、必要に応じて情報提供を行っている。	外部で行っている研修の情報提供は行えているが将来的にガンバ主催で開催していきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○	保護者が見やすい場所へ掲示し、支援プログラムはHPで確認できるようにしている。利用者負担等については契約時や必要に応じて保護者が理解しやすいよう丁寧な説明を行っている。	説明を行う中で、見て理解しやすいよう準備していく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○	半年に一度面談を行い意向を確認している。必要に応じて面談や話を聞いている。	半年に一度に限らず、定期的に確認する機会を設けていく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○	作成したものをもとに足りない部分は補足をしながら目標や内容を説明して同意を得ている。	作成したものを細かく説明させていただいているが言葉足らずなところがあると思われるため、わかりやすいよう説明していく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○	面談や送迎時などに保護者から悩みや相談を受けた場合には適宜対応を行っている。また、返答が難しい場合は、職員間で話し合いや情報収集をしながら保護者へ説明やアドバイスなどを行っている。	今後も必要に応じて面談等を行っていき継続していく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。	○	現在は行えていない。	今後保護者間で交流できる機会を設けられるように検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	契約時に苦情窓口についての説明を行っており、掲示等でも窓口について周知させていただいている。苦情があった場合は即座に事実を確認したうえで対応策を検討し、保護者へお伝えして改善に取り組んでいる。	スタッフ間での情報共有を、継続していく。
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○	HPやSNSを活用し、活動内容やイベントについてを発信している。	ガンバ独自で通信を作成し利用者へ発信できないか検討していく。	

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	HPやSNSに投稿する際に、写真には個人が特定されないように加工している。また、文書などの個人情報に関するものは外部に漏れないよう十分に注意しながら管理を徹底している。	日頃から心がけているが、今後もスタッフ間でも書類の扱い方や情報が分かるものは保管の仕方に気を付けるよう周知していく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	利用開始や契約説明などの際に出来る限り時間をかけて取り組んでいる。また支援の際には利用者に合わせて絵カードなど視覚情報ツールを用いながら意思の疎通や表現しやすいような配慮をしている。	ツールやサインの把握、また時間をかけて話をすることやわからないところはお話しいただくことをお伝えしている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	地域住民を招待する規模のイベントは法人内ではあるが、ガンパでは行っていない。また、他の場所で開催されている作品展覧には参加してチラシを配っている。	ガンパとガンパプラスで合同のイベントを行えるよう検討していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	年に一度見直しを行い策定したものは保護者が見やすい場所に掲示したり、職員間で策定したものについて話し合いを行ったりしている。	策定したままにせず、定期的にスタッフ間で読み合わせ等を行い周知していくことが必要だと考えられる。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	自然災害に関しては避難訓練や消防訓練を行い非常災害に備えている。また、感染症等は平時からの備えを大切に、職員間で周知、確認を行っている。	職員全員が周知できるように、定期的に話し合いを行ったり委員会を通して内容を確認できる時間を設けたりしていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○	服薬があるときは保管の仕方を徹底し、時間で服薬している。また、保護者から通院等の話を聞き、確認を行っている。緊急搬送先なども確認し、もしもの場合に備えている。	薬の誤薬防止のため保管場所を子どもの出入りが少ない場所に設定する。服薬の確認を行うスタッフを決め、確認後、他のスタッフに共有するようにする。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	保護者から書いて頂いた記録をもとにアレルギー一覧表を作成している。	アレルギー一覧表を作成しているが、医師からの指示書はなく、今後保護者に確認を取り対応を進めていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	安全計画を作成しHPを閲覧可能にしている。また、計画に沿って研修や避難訓練などを実施している。	毎月定期的に点検しているが、点検を行う期間を短く設定し直し安全に過ごせる環境を整える。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	HPで掲載し、いつでも確認できるようにしている。また、システム内でも掲載して確認できるようにしている。	スタッフ間での周知と確認を徹底し、家族等に再度確認する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	月ごとに発生したヒヤリハットを会議の際に報告、全職員へ担当者会議の際に共有している。	正職やパートだけでなく、アルバイトにも検討した内容を共有し再発防止に努める。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	不定期ではあるが全職員に向けて虐待防止、また法人内での研修がなされている。	定期的な研修やチェックリストの使用を継続して行う。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○	各利用者ごとに個別で契約書の書面において身体拘束の同意を保護者から頂いている。	新規入職のスタッフへも入職時に説明しスタッフ間での情報共有を徹底する。